

平成25年1月24日

厚生労働省
医政局長 原 徳 壽 殿

一般社団法人日本病院会会長
社団法人全日本病院協会会長
社団法人日本医療法人協会会長
公益社団法人日本精神科病院協会会長

堺 常
西 澤 寛
日 野 頌
山 崎



生体内圧力の計量単位について（要望）

血圧と眼球系及び眼科領域の圧力単位は、密接な関係にあり、国際的にも広く普及しております。また、医療機関・学術団体における各種ガイドラインや学術論文・学会において、mmHgの数値が標準的に使用されています。本邦のみが「パスカル（Pa）」を採用しますと、当該分野において国際社会で孤立し、以下に述べますように極めて重大な不具合を生じることから、眼圧単位における「水銀柱ミリメートル（mmHg）」に関しては、「Pa」ではなく、「mmHg」の使用を、永久的にお認めいただくよう強く要望いたします。

また、認められなかった場合においては、眼圧以外の頭蓋内圧、膀胱内圧等の単位の変更を含め、十分な期間を確保し周知を図るとともに、計測機器に両値表示等の措置を講じられたい。

1. 眼科領域の圧力単位としては、眼圧（眼球圧力）及び眼血管系の血圧（眼動脈圧、上強膜静脈圧等）が代表的なものです。眼圧と眼動脈圧の圧差は眼灌流圧として、又眼圧と上強膜静脈圧の圧差は流出圧として眼科臨床に欠くべからず重要な値として汎用されています。もし眼圧がPa、血圧は従来通りmmHg表示となると、両者の単位が異なり眼灌流圧、流出圧の算出に大きな混乱が生じることとなります。
2. 欧米では、血液ガス測定単位に例外的にkPaを採用しているオランダ、イギリスでさえも従来通り眼圧も血圧もmmHgを例外なく使用し単位変更の動きは全くみられません。本邦一国のみが世界の中で眼圧をPaとしますと、輸出入されるすべての医療機器において、単位変更のために、機器の各表示変更が必要になります。このことは輸出入における大きな障壁となることは間違いありません。また、国際的な論文、学会発表においても、PaからmmHgに変換する必要が生じ、学術上も大きな不都合が生じることとなります。
3. 上記1. で述べた如く、血圧、眼圧は同一線上で理解すべき指標ですが、血圧系がmmHgで眼圧がPaで通告されますと、従来mmHgでの値を受け入れて理解してきた患者、医療側両者間で多大且つ無用の混乱が生じ、結果的には国民福祉、医療サービスの大幅な低下につながります。また、医療安全の観点からも重大な支障を招くこととなります。
4. 緑内障診断には眼圧測定が不可欠ですが、従来の患者啓発等は全てmmHg単位で行っており、これがPaとなれば無用且長々とした説明が必要となり、特に年配の患者様には理解してもらえない可能性が極めて高く、医療側及び特に患者様側にとって極めて大きな不利益になります。同様に、眼圧は健診や人間ドックなどでも測定されており、これらのmmHg表記を変更することになれば、眼科領域のみならず多くの領域に影響が及びます。

これらのmmHg表記の変更は、国民の疾患理解に混乱が生じ、医療行政上の損失も計り知れないと考えられます。

平成25年1月24日

経済産業省

産業技術環境局長 鈴木 英夫 殿

一般社団法人日本病院会会長
社団法人全日本病院協会会長
社団法人日本医療法人協会会長
公益社団法人日本精神科病院協会会長

堀 常寛
西澤 澤
日野 頌
山崎



生体内圧力の計量単位について（要望）

血圧と眼球系及び眼科領域の圧力単位は、密接な関係にあり、国際的にも広く普及しております。また、医療機関・学術団体における各種ガイドラインや学術論文・学会において、mmHgの数値が標準的に使用されています。本邦のみが「パスカル（Pa）」を採用しますと、当該分野において国際社会で孤立し、以下に述べますように極めて重大な不具合を生じることから、眼圧単位における「水銀柱ミリメートル（mmHg）」に関しては、「Pa」ではなく、「mmHg」の使用を、永久的にお認めいただくよう強く要望いたします。

また、認められなかった場合においては、眼圧以外の頭蓋内圧、膀胱内圧等の単位の変更を含め、十分な期間を確保し周知を図るとともに、計測機器に両値表示等の措置を講じられたい。

1. 眼科領域の圧力単位としては、眼圧（眼球圧力）及び眼血管系の血圧（眼動脈圧、上鞅膜静脈圧等）が代表的なものです。眼圧と眼動脈圧の圧差は眼灌流圧として、又眼圧と上鞅膜静脈圧の圧差は流出圧として眼科臨床上欠くべからず重要な値として汎用されています。もし眼圧がPa、血圧は従来通りmmHg表示となると、両者の単位が異なり眼灌流圧、流出圧の算出に大きな混乱が生じることとなります。
2. 欧米では、血液ガス測定単位に例外的にkPaを採用しているオランダ、イギリスでさえも従来通り眼圧も血圧もmmHgを例外なく使用し単位変更の動きは全くみられません。本邦一国のみが世界の中で眼圧をPaとしますと、輸出入されるすべての医療機器において、単位変更のために、機器の各表示変更が必要になります。このことは輸出入における大きな障壁となることは間違いありません。また、国際的な論文、学会発表においても、PaからmmHgに変換する必要が生じ、学術上も大きな不都合が生じることとなります。
3. 上記1. で述べた如く、血圧、眼圧は同一線上で理解すべき指標ですが、血圧系がmmHgで眼圧がPaで通告されますと、従来mmHgでの値を受け入れて理解してきた患者、医療側両者間で多大且つ無用の混乱が生じ、結果的には国民福祉、医療サービスの大幅な低下につながります。また、医療安全の観点からも重大な支障を招くこととなります。
4. 緑内障診断には眼圧測定が不可欠であります。従来の患者啓発等は全てmmHg単位で行っており、これがPaとなれば無用且長々とした説明が必要となり、特に年配の患者様には理解してもらえない可能性が極めて高く、医療側及び特に患者様側にとって極めて大きな不利益になります。同様に、眼圧は健診や人間ドックなどでも測定されており、これらのmmHg表記を変更することになれば、眼科領域のみならず多くの領域に影響が及びます。

これらのmmHg表記の変更は、国民の疾患理解に混乱が生じ、医療行政上の損失も計り知れないと考えられます。

平成25年1月24日

経済産業省

産業技術環境局 知的基盤課

計量行政室長 星野 雄一 殿

一般社団法人日本病院会会長
社団法人全日本病院協会会長
社団法人日本医療法人協会会長
公益社団法人日本精神科病院協会会長

堀 常
西 澤 寛
日 野 頌
山 崎



生体内圧力の計量単位について（要望）

血圧と眼球系及び眼科領域の圧力単位は、密接な関係にあり、国際的にも広く普及しております。また、医療機関・学術団体における各種ガイドラインや学術論文・学会において、mmHgの数値が標準的に使用されています。本邦のみが「パスカル（Pa）」を採用しますと、当該分野において国際社会で孤立し、以下に述べますように極めて重大な不具合を生じることから、眼圧単位における「水銀柱ミリメートル（mmHg）」に関しては、「Pa」ではなく、「mmHg」の使用を、永久的にお認めいただくよう強く要望いたします。

また、認められなかった場合においては、眼圧以外の頭蓋内圧、膀胱内圧等の単位の変更を含め、十分な期間を確保し周知を図るとともに、計測機器に両値表示等の措置を講じられたい。

1. 眼科領域の圧力単位としては、眼圧（眼球圧力）及び眼血管系の血圧（眼動脈圧、上強膜静脈圧等）が代表的なものです。眼圧と眼動脈圧の圧差は眼灌流圧として、又眼圧と上強膜静脈圧の圧差は流出圧として眼科臨床上で欠くべからず重要な値として汎用されています。もし眼圧がPa、血圧は従来通りmmHg表示となると、両者の単位が異なり眼灌流圧、流出圧の算出に大きな混乱が生じることとなります。
2. 欧米では、血液ガス測定単位に例外的にkPaを採用しているオランダ、イギリスでさえも従来通り眼圧も血圧もmmHgを例外なく使用し単位変更の動きは全くみられません。本邦一国のみが世界の中で眼圧をPaとしますと、輸出入されるすべての医療機器において、単位変更のために、機器の各表示変更が必要になります。このことは輸出入における大きな障壁となることは間違いありません。また、国際的な論文、学会発表においても、PaからmmHgに変換する必要が生じ、学術上も大きな不都合が生じることとなります。
3. 上記1. で述べた如く、血圧、眼圧は同一線上で理解すべき指標ですが、血圧系がmmHgで眼圧がPaで通告されますと、従来mmHgでの値を受け入れて理解してきた患者、医療側両者間で多大且つ無用の混乱が生じ、結果的には国民福祉、医療サービスの大幅な低下につながります。また、医療安全の観点からも重大な支障を招くこととなります。
4. 緑内障診断には眼圧測定が不可欠ですが、従来の患者啓発等は全てmmHg単位で行っており、これがPaとなれば無用且長々とした説明が必要となり、特に年配の患者様には理解してもらえない可能性が極めて高く、医療側及び特に患者様側にとって極めて大きな不利益になります。同様に、眼圧は健診や人間ドックなどでも測定されており、これらのmmHg表記を変更することになれば、眼科領域のみならず多くの領域に影響が及びます。

これらのmmHg表記の変更は、国民の疾患理解に混乱が生じ、医療行政上の損失も計り知れないと考えられます。